

下関戦争（四国艦隊下関砲撃事件）



* 毛利家文庫 63馬関戦争一件22「長州下ノ関ニ於テ仏英垂蘭戦争之始末書並絵図面共」

1864年の戦いの様子です。下関の方々が炎上しています。同資料にはほかにもこの戦争の絵図があります。

解説

1863（文久3）年5月10日、長州藩は攘夷実行という大義のもと、航行中の外国船に対して砲撃を加えました。翌月には報復として米仏軍艦が関門海峡で長州軍艦2隻を撃沈し長州の砲台を攻撃しましたが、長州は砲台を修復し海峡封鎖を続行しました。

この海峡封鎖は諸外国の外交政策に大きな打撃を与えたため、英国駐日公使オールコックは、仏・米・蘭に呼びかけて連合艦隊を編成し、1864（元治元）年8月、下関と彦島の砲台を徹底的に砲撃・占領しました（写真左、四国艦隊下関砲撃事件）。

これらの戦争を通じて列国の軍勢力を目の当たりにした長州藩は、その後、強力な統一国家建設を目指して倒幕運動に向かいました。



* 毛利家文庫 81写真114-5「馬関砲台写真（下関市）」

この有名な写真はイギリスの写真家F. ベートによる撮影で、神奈川県横浜開港資料館にも同じ写真があります。「下の方の砲台の内部。占領後 1864年9月6日」と英文キャプションがついています。

* このほか、当館にはこの攘夷戦争に従軍した金子文輔の日記等、多くの関連資料が毛利家文庫 63馬関戦争一件のなかにあります。